

Oracle® VM
Server インストール・ガイド
リリース 2.1

2007 年 11 月

Oracle VM Server インストール・ガイド、リリース 2.1

Copyright © 2007, Oracle. All rights reserved.

著者：Alison Holloway

共著者：Kurt Hackel、Herbert van den Bergh

共著者：Tatyana Bagerman

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

本文書に記載された内容は、予告なく変更されることがあります。本文書内に問題が見つかった場合は、書面にて報告してください。オラクル社およびその関連会社は、本文書に一切間違いがないことを保証するものではありません。これらのプログラムのライセンス契約において明確に許諾されている場合を除いて、いかなる形式、手段（電子的または機械的）、目的のためにも、これらのプログラムを複製または転用することはできません。

このプログラムがアメリカ政府またはプログラムのライセンスを受け、使用するアメリカ政府の代理人に提供される場合は、以下の注意事項を適用します。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることはライセンシーの責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、および Siebel は、米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、

(a) 第三者の製品およびサービスの品質、(b) 購入製品またはサービスに関連する第三者との契約のいかなる条項の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しても責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに

対象読者	v
ドキュメント・アクセシビリティ	v
コマンド構文	vi
関連資料	vi
表記規則	vi

1 Oracle VM Server のインストール

1.1	ハードウェア要件	1-1
1.2	ソフトウェア要件	1-1
1.3	ネットワーク要件	1-1
1.4	始める前に	1-2
1.5	CD-ROM からの Oracle VM Server のインストール	1-2
1.6	他のソースからの Oracle VM Server のインストール	1-12
1.6.1	ハードディスク・ドライブからの Oracle VM Server のインストール	1-15
1.6.2	NFS イメージからの Oracle VM Server のインストール	1-15
1.6.3	FTP サーバーからの Oracle VM Server のインストール	1-17
1.6.4	HTTP サーバーからの Oracle VM Server のインストール	1-20

はじめに

ここでは、Oracle VM Server インストール・ガイドの使用方法について説明します。記載されている内容は以下のとおりです。

- [対象読者](#)
- [ドキュメント・アクセシビリティ](#)
- [コマンド構文](#)
- [関連資料](#)
- [表記規則](#)

対象読者

本書の対象読者は、仮想化環境をインストールするシステム管理者です。

ドキュメント・アクセシビリティ

オラクルは、製品、サービス、およびサポート・ドキュメントを障害のあるお客様にも簡単に使用していただくことを目標としています。このドキュメントには、ユーザーにアシスティブ・テクノロジーに関する情報を提供する機能が含まれています。このドキュメントは、HTML形式で入手できます。また、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるためのマークアップが含まれています。アクセシビリティの標準は進化し続けており、オラクルは当社のドキュメントをすべてのお客様が利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に関与して技術的な問題に対処しています。詳しくは、Oracle Accessibility ProgramのWebサイト<http://www.oracle.com/accessibility/>を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティ

スクリーン・リーダーは、このドキュメント内のコード例を正確に読み取れない場合があります。コードの表記規則では、右中括弧を空の行に記述する必要があります。ただし、スクリーン・リーダーでは、括弧または中括弧のみを含むテキスト行を正確に読み取れない場合があります。

ドキュメント内の外部 Web サイトへのリンクのアクセシビリティ

このドキュメントには、オラクルで所有または管理していない他の企業または組織の Web サイトへのリンクが含まれる場合があります。オラクルは、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や申し立ては行っていません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

米国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休で専用のテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートへは、800-446-2398 へお電話ください。米国外からは、+1-407-458-2479 へお電話ください。

コマンド構文

UNIX コマンド構文は、固定幅フォントで示されます。ドル記号 (\$)、番号記号 (#)、およびパーセント記号 (%) は、UNIX コマンド・プロンプトです。コマンドの一部としてこれらの記号を入力しないでください。このガイドでは次のコマンド構文規則を使用します。

規則	説明
バックスラッシュ ¥	バックスラッシュは、UNIX コマンドの継続文字です。コマンドの例でコマンドが 1 行に収まらない場合に使用します。コマンドは、このマニュアルで記載しているとおりに入力する (バックスラッシュを付ける) か、バックスラッシュを付けずに 1 行で入力します。 <code>dd if=/dev/rdisk/c0t1d0s6 of=/dev/rst0 bs=10b ¥ count=10000</code>
中括弧 { }	中括弧は、必須項目を表します。 <code>.DEFINE {macro1}</code>
大括弧 []	大括弧は、オプション項目を表します。 <code>cvtcrt termname [outfile]</code>
省略記号 ...	省略記号は、同様の項目を任意の数だけ繰り返すことを表します。 <code>CHKVAL fieldname value1 value2 ... valueN</code>
イタリック体	イタリック体は、変数を表します。変数には値を代入します。 <code>library_name</code>
縦線	縦線は、中括弧または大括弧内の選択肢を区切ります。 <code>FILE filesize [K M]</code>

関連資料

詳しくは、Oracle VM Release 2.1 ドキュメント・セットの次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle VM クイック・スタート・ガイド』
- 『Oracle VM Server リリース・ノート』
- 『Oracle VM Server ユーザー・ガイド』
- 『Oracle VM Manager リリース・ノート』
- 『Oracle VM Manager インストール・ガイド』
- 『Oracle VM Manager ユーザー・ガイド』

表記規則

このドキュメントでは次の表記規則を使用します。

規則	意味
太字	太字は、操作に関連付けられているグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) 要素、または本文中や用語集で定義されている用語を示します。
イタリック	イタリック体は、書籍のタイトル、強調、または特定の値を指定する必要があるプレースホルダ変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、コード例、画面に表示されるテキストまたはユーザーが入力するテキストを示します。

Oracle VM Serverのインストール

この章では、Oracle VM Server のダウンロードとインストールについて説明します。この章の構成は以下のとおりです。

- ハードウェア要件
- ソフトウェア要件
- ネットワーク要件
- CD-ROMからのOracle VM Serverのインストール
- 他のソースからのOracle VM Serverのインストール

1.1 ハードウェア要件

Oracle VM Server は、x86 (i686) および x86_64 プロセッサを搭載したコンピュータをサポートします。これには、すべての Intel Pentium Pro とそれ以降のプロセッサ、すべての AMD Athlon/Duron とそれ以降のプロセッサが含まれますが、Pentium 4 または Athlon 以上の CPU の使用が推奨されています。

ハードウェアの仮想化に対応した（未修正の）ゲスト・オペレーティング・システム（Microsoft Windows など）の場合、ハードウェアの仮想化をサポートする CPU が必要です。これには、Intel Pentium D/Core/Core2/Xeon モデルと AMD Athlon/Opteron モデルが含まれます。また、この機能を BIOS で有効化する必要があります。ハードウェアの仮想化がサポートされているかどうか、また BIOS での有効化方法については、ご使用のプロセッサ・ドキュメントを参照してください。

複数のゲストを実行する場合、デュアル・コア CPU または複数の CPU の使用が推奨されています。

最小のメモリー要件は 1GB RAM ですが、少なくとも 2GB RAM を搭載したコンピュータの使用が推奨されています。ゲストのメモリー要件は、ゲスト・オペレーティング・システムごとに異なります。ゲスト・オペレーティング・システムについては、個別にメモリー・サイジングを行ってください。

1.2 ソフトウェア要件

ソフトウェアの前提条件はありません。Oracle VM Server には、小規模な Linux ベースの管理オペレーティング・システムが含まれます。以前のすべてのオペレーティング・システムとデータは、Oracle VM Server のインストール中に失われます。

オペレーティング・システムまたは以前の仮想化環境からの移行は、このリリースでサポートされていません。

1.3 ネットワーク要件

静的 IP アドレスのマシンに Oracle VM Server をインストールすることが推奨されます。マシンで DHCP を使用している場合、DHCP サーバーを構成して静的 DHCP アドレスを割り当てる必

要があります。これによって、ホストが同じ IP アドレスを常に受信できます。DHCP リースの有効期限によって IP アドレスが変更される環境で使用する場合、Oracle VM Server ホストは未定義の動作になります。

1.4 始める前に

Oracle VM Server ソフトウェアを準備していない場合、以下の URL から Oracle VM Server の ISO ファイルをダウンロードしてください。

<http://www.oracle.com/virtualization>

ブータブル CD-ROM に Oracle VM Server の ISO ファイルを作成します。

さまざまなソースから Oracle VM Server をインストールできます。

- ローカル CD-ROM
- ハードディスク・ドライブ
- NFS サーバー
- FTP サーバー
- HTTP サーバー

CD-ROMからOracle VM Serverをインストールするには、"[1.5 CD-ROMからのOracle VM Serverのインストール](#)"を参照してください。ハードディスク・ドライブ、NFSサーバー、FTPサーバー、またはHTTPサーバーからOracle VM Serverをインストールするには、"[1.6 他のソースからのOracle VM Serverのインストール](#)"を参照してください。

1.5 CD-ROM からの Oracle VM Server のインストール

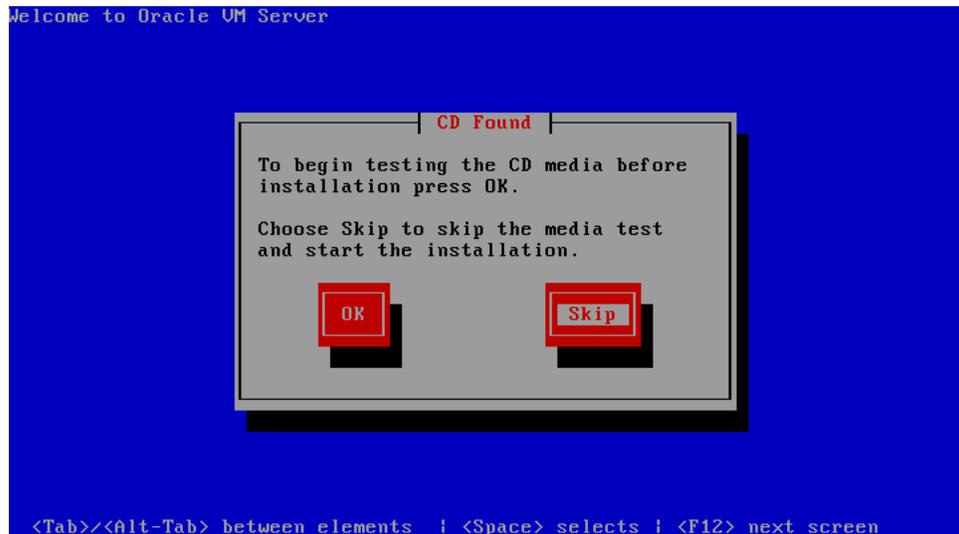
CD-ROM から Oracle VM Server をインストールするには、以下の手順に従います。

1. Oracle VM Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. Oracle VM Server CD-ROM を設定したコンピュータをブートします。
3. Oracle VM Server画面が表示されます。



[Enter]を押して、インストールを開始します。1 分間キーを押さなかった場合、インストーラが自動的に起動します。インストーラは、テキスト・モードでのみ使用できます。

4. CD Found画面が表示されます。



CD-ROMが正しく作成されているかを確認する場合、インストーラを使用してエラー・テストを実行できます。CD-ROMをテストするには、「OK」を選択し、[Enter]を押します。CD-ROMがテストされ、エラーが通知されます。

メディア・テストをスキップしてインストールを続行するには、「Skip」を選択し、[Enter]を押します。

5. Language Selection画面が表示されます。



使用できるオプションのリストからオペレーティング・システムの言語を選択します。選択した言語は、オペレーティング・システムのデフォルトの言語になります。適切な言語を選択すると、インストールの後半のタイムゾーン構成が容易になります。

「OK」を選択し、[Enter]を押します。

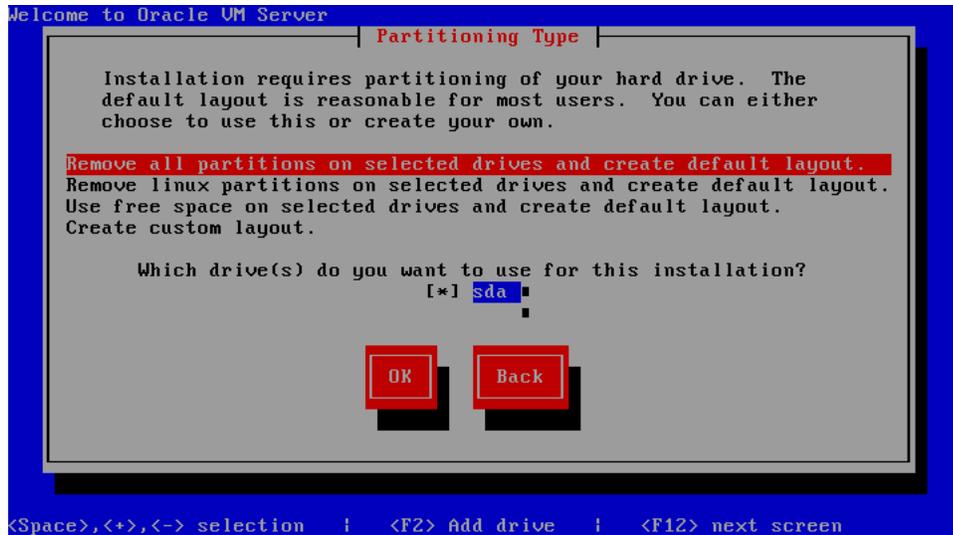
6. Keyboard Type画面が表示されます。



使用できるオプションのリストからキーボード・レイアウト・タイプ（米語のusなど）を選択します。選択したキーボードは、オペレーティング・システムのデフォルトのキーボードになります。

「OK」を選択し、[Enter]を押します。

7. Partitioning Type画面が表示されます。



以下の操作を選択します。

- Remove all partitions and create a new default partition layout
すべてのパーティションの削除および新しいデフォルト・パーティション・レイアウトの作成
- Remove all Linux partitions and create a new default partition layout
すべての Linux パーティションの削除および新しいデフォルト・パーティション・レイアウトの作成

- Use the free space on selected drives to create a new default partition layout

選択したドライブの空き領域を使用した新しいデフォルト・パーティション・レイアウトの作成

- Create a custom partition layout

カスタム・パーティション・レイアウトの作成

オラクルでは、デフォルト・パーティション・レイアウトの使用を推奨しています。

注： Oracle VM Server インストーラはテキスト・モードでのみ実行可能なので、LVM（論理ボリューム・マネージャ）は設定できません。LVM構成を行う場合、**[Alt]**を押しながら**[F2]**キーを押してターミナルを使用し、lvmコマンドを実行します。Oracle VM Server インストーラに戻るには、**[Alt]**を押しながら**[F1]**キーを押します。

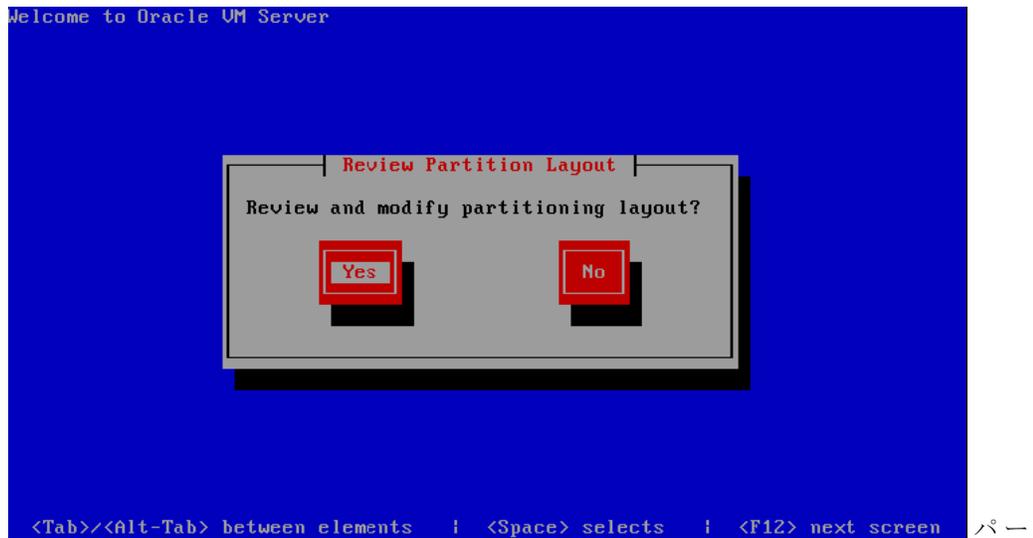
インストールに使用するドライブを選択します。

「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。

8. パーティションの削除を選択した場合、パーティション（パーティションに格納されているデータを含む）の削除を確認する**Warning**画面が表示されます。



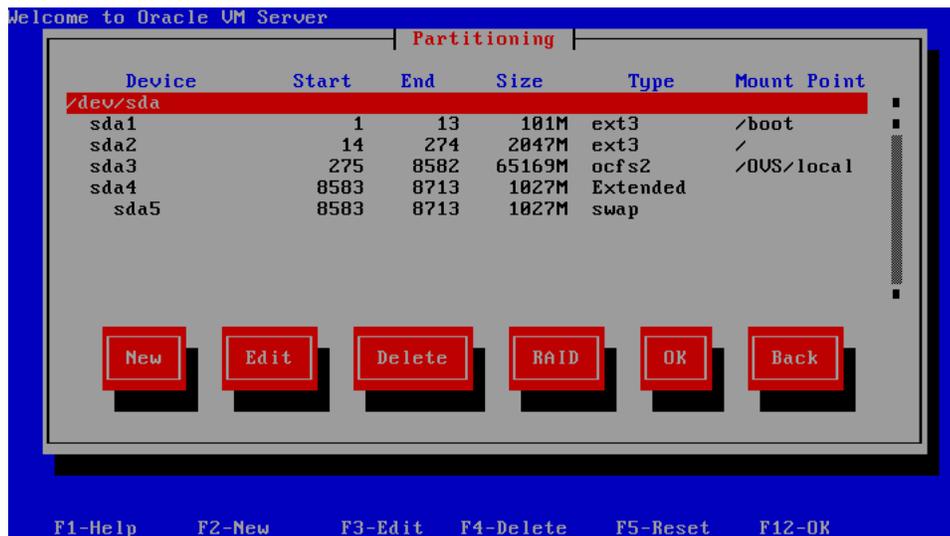
「**Yes**」を選択し、**[Enter]**を押します。

9. Review Partition Layout画面が表示されます。

パーティション・レイアウトを確認しないでデフォルト・パーティション・レイアウトを受け入れる場合、「No」を選択し、[Enter]を押します。

パーティション・レイアウトを確認する場合は、「Yes」を選択し、[Enter]を押します。

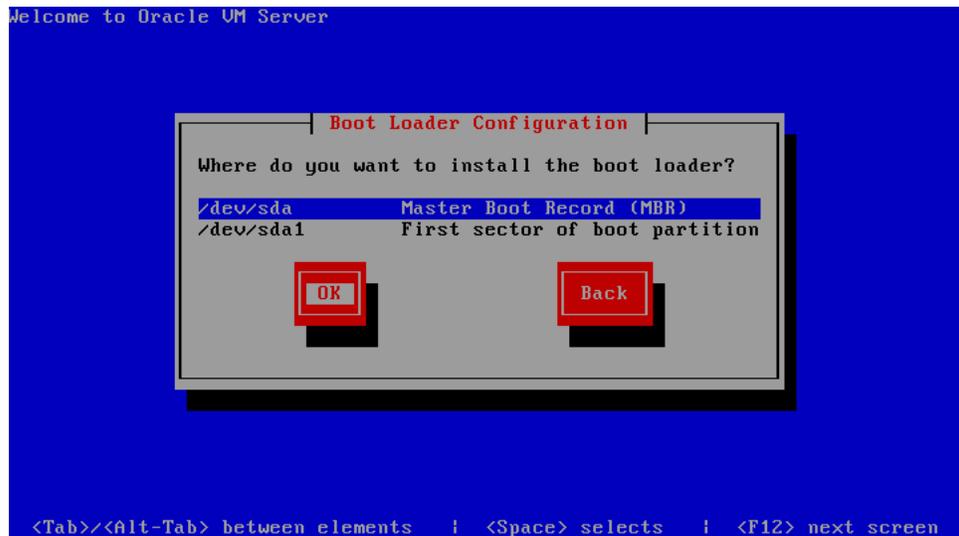
Partitioning画面が表示されます。



パーティション・レイアウトを確認し、任意の変更を行います。

「OK」を選択し、[Enter]を押して変更を保存します。

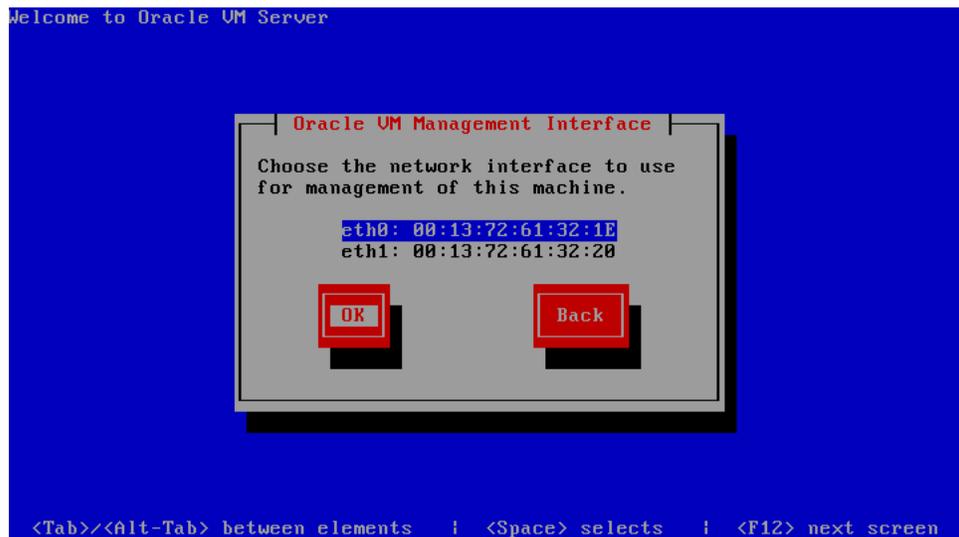
10. **Boot Loader Configuration**画面が表示されます。



ブート・ローダーのインストール場所として、「**Master Boot Record (MBR)**」または「**First sector of boot partition**」を選択します。

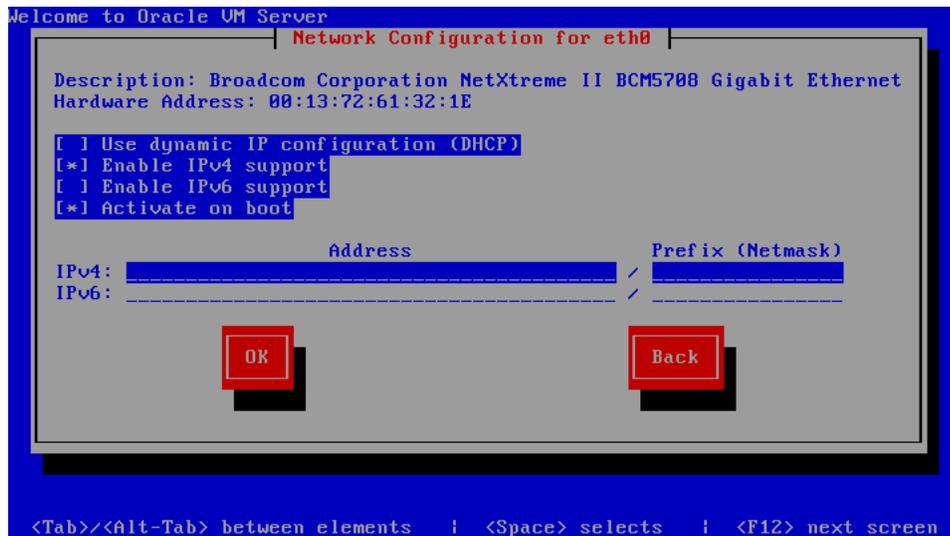
「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。

11. **Oracle VM Management Interface**画面が表示されます。



コンピュータの管理に使用するネットワーク・インタフェースを選択します。

「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。

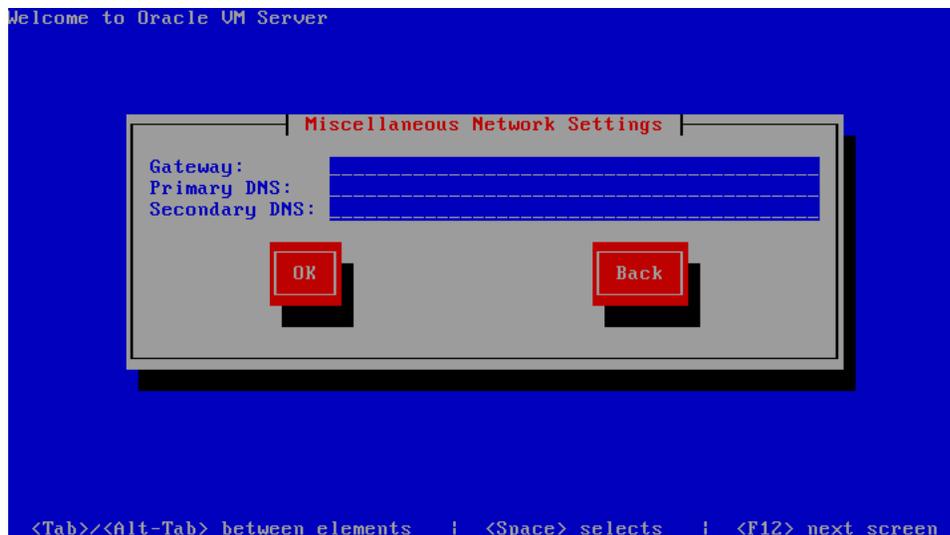
12. Network Configuration for eth0画面が表示されます。

コンピュータで静的 IP アドレスを使用している場合、IPv4 または IPv6、あるいはその両方を有効にするかどうかを選択します。コンピュータの IP アドレスと接頭辞（ネットマスク）を入力します。NFS ドライブを使用してインストールを実行している場合、IPv4 の詳細を入力する必要があります。IPv4 サポートは、デフォルトで有効です。

コンピュータでDHCPを使用してIPアドレスを割り当てる場合、「Use dynamic IP configuration (DHCP)」を選択します。Oracle VM ServerでのDHCPの使用について詳しくは、「[1.3 ネットワーク要件](#)」を参照してください。

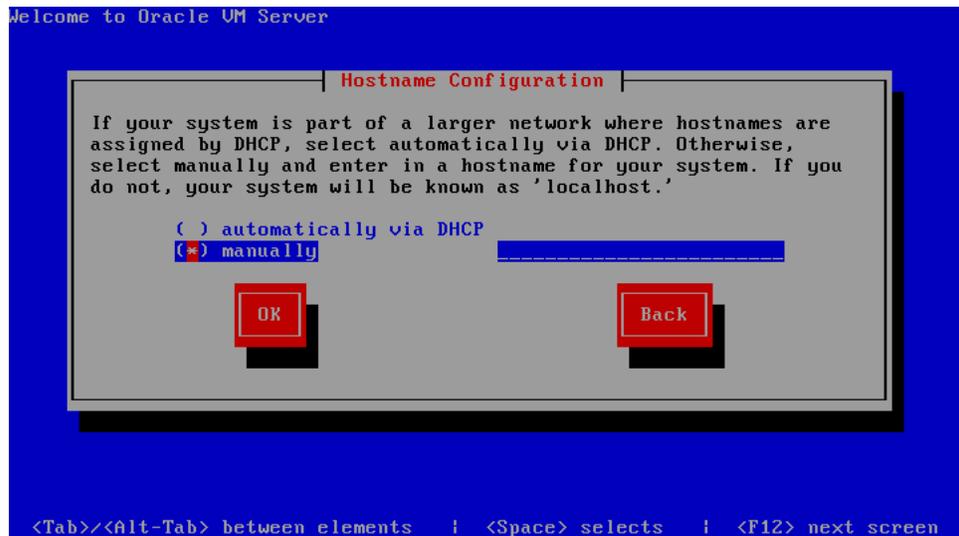
コンピュータをブートするたびにネットワーク構成を有効にするかどうかを選択します。これは、デフォルトで有効です。

「OK」を選択し、[Enter]を押します。

13. Miscellaneous Network Settings画面が表示されます。

Gateway、Primary DNS、および Secondary DNS（オプション）の各フィールドを入力します。

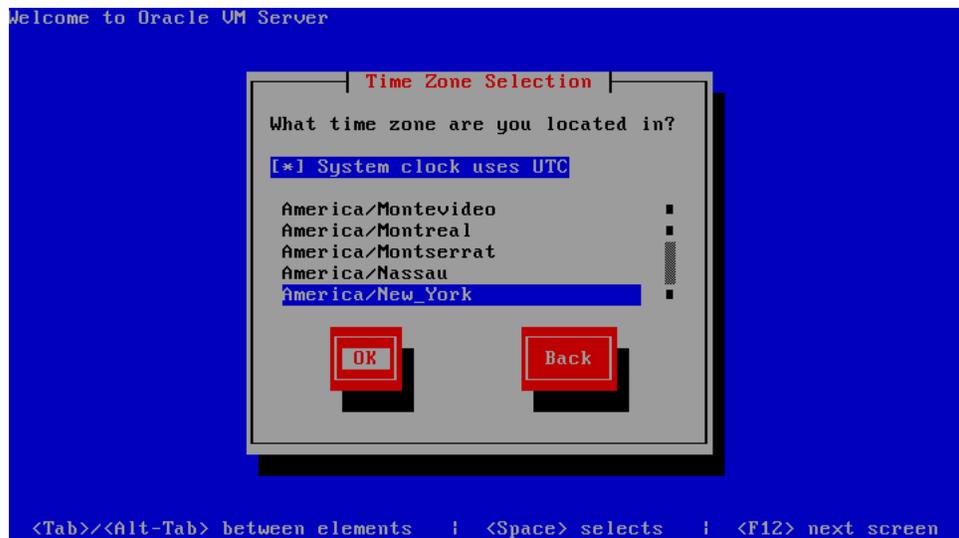
「OK」を選択し、[Enter]を押します。

14. Hostname Configuration画面が表示されます。

マシンに固有のホスト名がある場合、「**manually**」を選択し、ホスト名またはIPアドレスを入力します。

マシンでDHCPを使用してホスト名を割り当てる場合、「**automatically via DHCP**」を選択します。Oracle VM ServerでのDHCPの使用については、「[1.3 ネットワーク要件](#)」を参照してください。

「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。

15. Time Zone Selection画面が表示されます。

オペレーティング・システムでCoordinated Universal Time (UTC) を使用している場合、「**System clock uses UTC**」を選択します。

コンピュータの物理的な場所にもっとも近い都市を選択して、タイムゾーンを選択します。

「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。

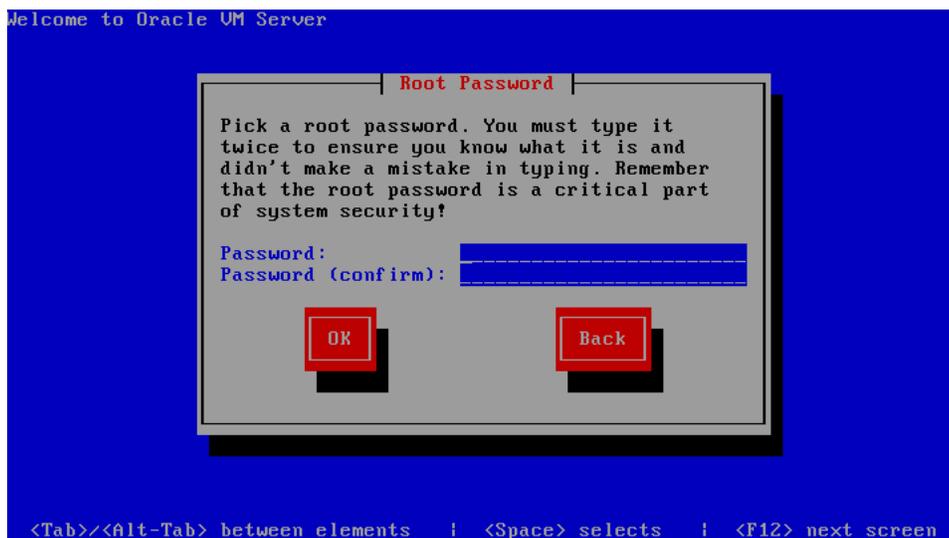
16. Oracle VM Agent password画面が表示されます。

Oracle VM Agentに使用されるパスワードを**Password**フィールドに入力します。Oracle VM ServerとOracle VM Server内で実行される作成したゲストを管理および監視するため、このパスワードは、Oracle VM Managerによって使用されます。

Password (confirm)フィールドにパスワードを再入力します。

パスワードの文字は、画面に反映されません。

「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。2つのパスワードが一致しない場合、インストーラが再入力を求めます。

17. Root Password画面が表示されます。

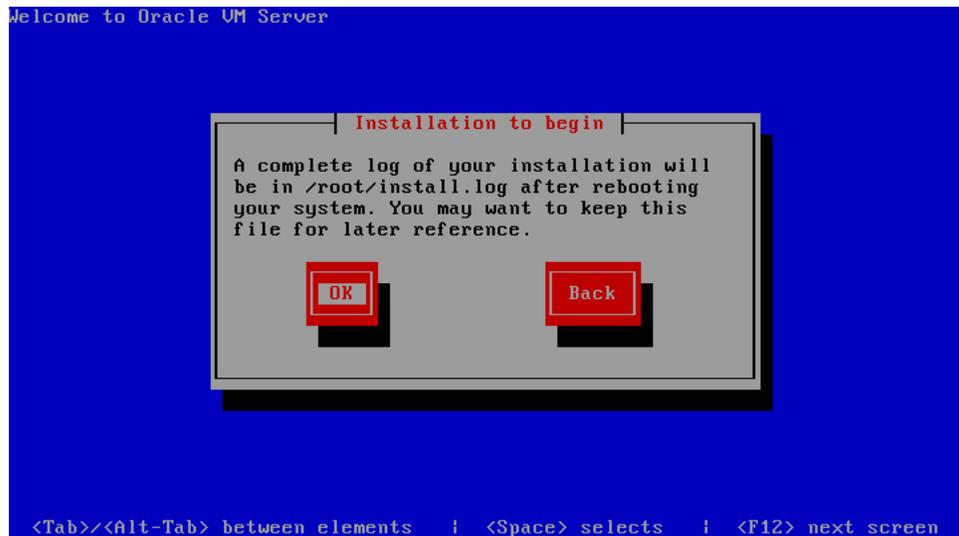
rootユーザーのパスワードを**Password**フィールドに入力します。**root**パスワードは、少なくとも6文字以上にする必要があります。

パスワードを**Password (confirm)**フィールドに再入力します。

パスワードの文字は、画面に反映されません。

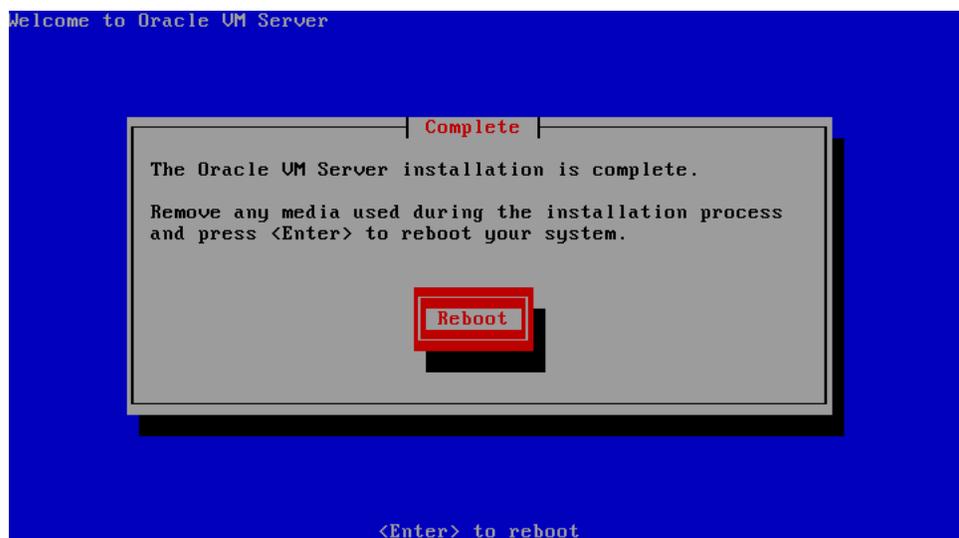
「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。2つのパスワードが一致しない場合、インストーラが再入力を求めます。

18. **Installation to begin**画面が表示されます。



「OK」を選択し、[Enter]を押します。インストーラは、Oracle VM Serverをインストールおよび構成します。

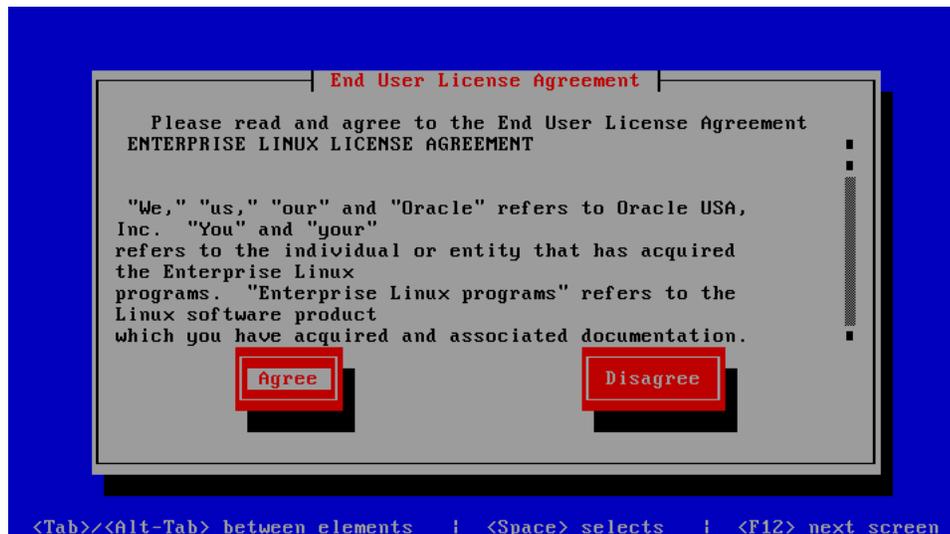
19. すべてのファイルがインストールされて構成が完了すると、**Complete**画面が表示されます。



Oracle VM Server CD-ROM を取り外します。

「Reboot」を選択し、[Enter]を押します。コンピュータがリブートします。

20. End User License Agreement画面が表示されます。



ライセンス契約を確認します。ライセンス契約の条項に同意する場合、「Agree」を選択し、[Enter]を押します。

21. 次の例のようなシステム情報が Oracle VM Server コンソールに表示されます。

```
Oracle VM server release 2.1
Hypervisor running in 64 bit mode with Hardware Virtualization support.
Total system memory : 4895 Mb.

Network :
Management Interface : eth0(Up)           Mac Address : 00:13:72:61:32:1E
Management IP address : 139.185.48.227

CPU :
cpu family : 6
model : 15
model name : Intel(R) Xeon(R) CPU          5150 @ 2.66GHz
stepping : 6
ca-ostest227m login:
```

22. Oracle VM Serverログイン・プロンプトが表示されます。インストール中に設定したパスワードを使用して、rootとしてOracle VM Serverにログインします。

Oracle VM Server のインストールが完了します。Oracle VM Agent が自動的に起動し、コンピュータがリブートされるたびに再起動されます。

注：インストール・ログは、/root/install.logにあります。インストールに失敗した場合は、原因を特定するためにこのログ・ファイルを確認します。

1.6 他のソースからの Oracle VM Server のインストール

この項では、ハードディスク・ドライブ、NFS サーバー、FTP サーバー、または HTTP サーバーからの Oracle VM Server のインストールについて説明します。この項のすべてのインス

ツールは、インストールに使用される場所で Oracle VM Server の ISO ファイルを使用できることが前提です。Oracle VM Server をインストールするには、以下の手順に従います。

1. Oracle VM Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. Oracle VM Server CD-ROM がセットされているコンピュータをブートします。
3. Oracle VM Server画面が表示されます。



boot:プロンプトで、以下を入力します。

```
linux askmethod
```

[Enter]を押します。

4. Language Selection画面が表示されます。



使用できるオプションのリストからオペレーティング・システムの言語を選択します。選択した言語は、オペレーティング・システムのデフォルトの言語になります。適切な言語を選択すると、インストールの後半のタイムゾーン構成が容易になります。

「OK」を選択し、[Enter]を押します。

5. **Keyboard Type**画面が表示されます。



使用できるオプションのリストからキーボード・レイアウト・タイプ（米語のusなど）を選択します。選択したキーボードは、オペレーティング・システムのデフォルトのキーボードになります。

「OK」を選択し、[Enter]を押します。

6. **Installation Method**画面が表示されます。



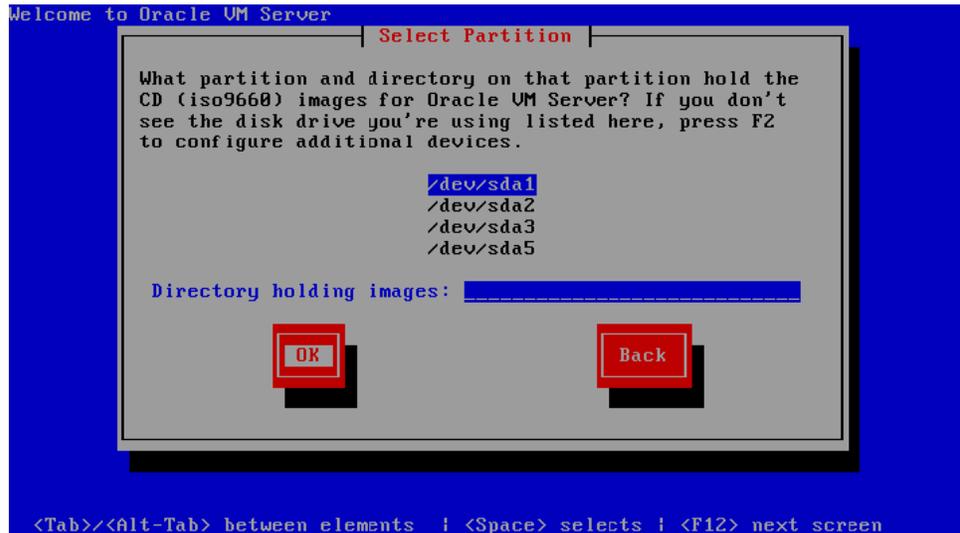
インストール場所の選択に関連する項を参照して、インストールを続行します。

- 1.6.1 ハードディスク・ドライブからのOracle VM Serverのインストール
- 1.6.2 NFSイメージからのOracle VM Serverのインストール
- 1.6.3 FTPサーバーからのOracle VM Serverのインストール
- 1.6.4 HTTPサーバーからのOracle VM Serverのインストール

1.6.1 ハードディスク・ドライブからの Oracle VM Server のインストール

ハードディスク・ドライブから Oracle VM Server をインストールするには、以下の手順に従います。

1. インストール方法のリストから「**Hard drive**」を選択します。「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。
2. **Select Partition**画面が表示されます。



Oracle VM ServerのISOファイルを含むパーティションを選択します。パーティションは、EXT2 またはVFATファイル・システムでフォーマットする必要があります。論理ボリュームにはできません。任意のパーティションがリストにない場合、**[F2]**を押して、追加のデバイスを構成します。

Oracle VM ServerのISOイメージを含むディレクトリを**Directory holding images**フィールドに入力します。Oracle VM ServerのISOファイルがパーティションのルート（最上位）ディレクトリにある場合、/（スラッシュ）を入力します。Oracle VM ServerのISOファイルが、マウントされたパーティションのサブディレクトリにある場合、そのパーティション内のファイルを含むディレクトリの名前を入力します。たとえば、Oracle VM ServerのISOファイルがマウントされているパーティションが/myhome/で、Oracle VM ServerのISOファイルが/myhome/new/にある場合、/new/を入力します。

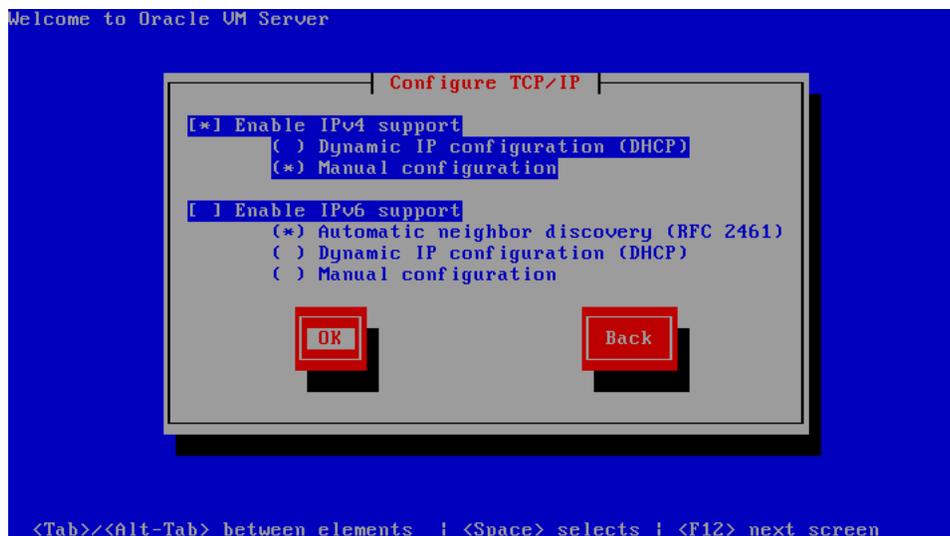
「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。

"1.5 CD-ROMからのOracle VM Serverのインストール"の手順7を参照して、インストールを続行します。

1.6.2 NFS イメージからの Oracle VM Server のインストール

Oracle VM Server の ISO ファイルまたはミラー・イメージのある NFS（Network File System）ドライブから Oracle VM Server をインストールできます。NFS ドライブから Oracle VM Server をインストールするには、以下の手順に従います。

1. インストール方法のリストから「**NFS image**」を選択します。
「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。
2. **Configure TCP/IP**画面が表示されます。

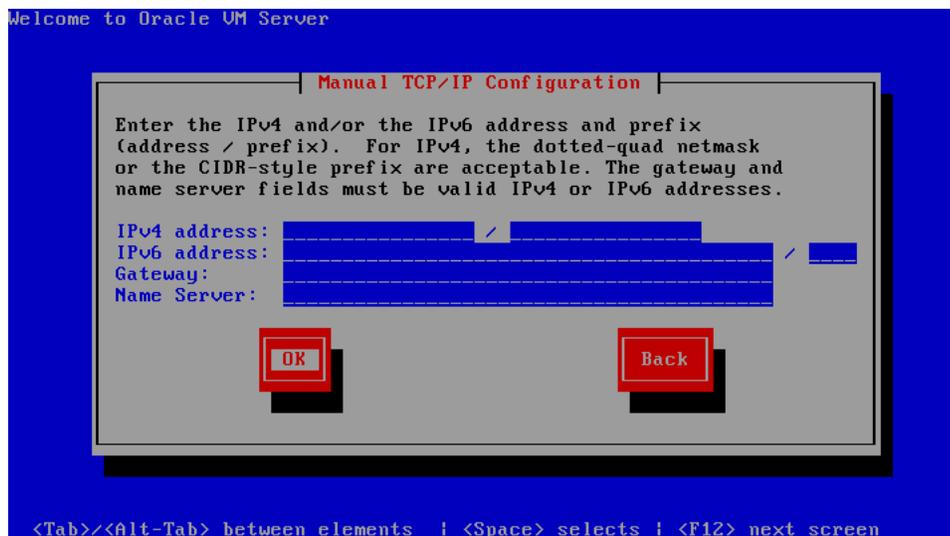


マシンで固有のIPアドレスを使用している場合、**Enable IPv4 support**の「**Manual configuration**」を選択します。また、オプションで**Enable IPv6 support**の「**Manual configuration**」を選択します。IPv4の詳細を入力する必要があります。

マシンでDHCPを使用してIPアドレスを割り当てる場合、**Enable IPv4 support**の「**Dynamic IP configuration (DHCP)**」を選択します。また、オプションで**Enable IPv6 support**の「**Dynamic IP configuration (DHCP)**」を選択します。Oracle VM ServerでのDHCPの使用について詳しくは、「[1.3 ネットワーク要件](#)」を参照してください。

「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。

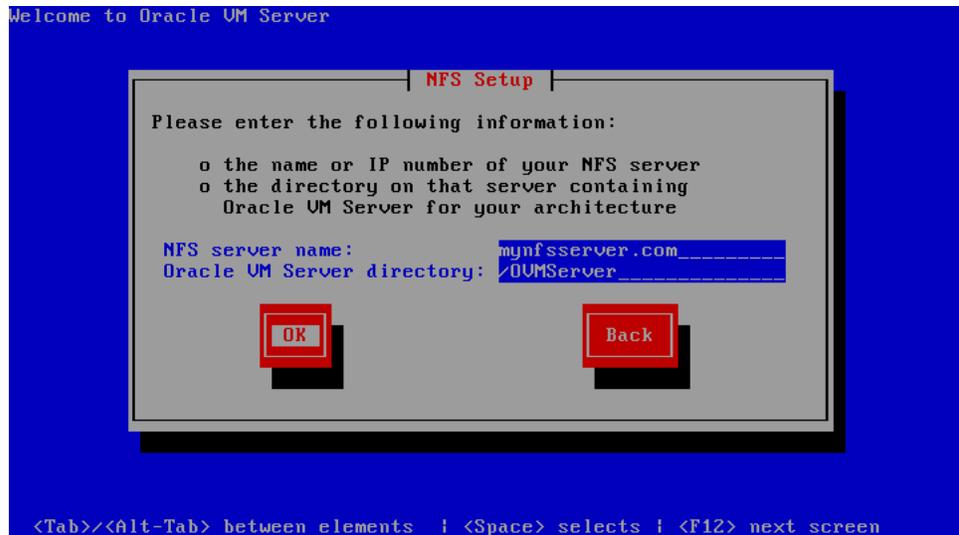
3. **Manual configuration**を選択した場合、**Manual TCP/IP Configuration**画面が表示されます。



IPv4 address、**IPv6 address**、**Gateway**、および**Name Server**を入力します。

「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。

4. **NFS Setup**画面が表示されます。



NFSサーバーのドメイン名またはIPアドレスを**NFS server name**フィールドに入力します。

NFS サーバーが Oracle VM Server インストール・ツリーのミラーをエクスポートしている場合、インストール・ツリーのルートを含むディレクトリを入力します。NFS サーバーが Oracle VM Server の ISO ファイルをエクスポートしている場合、ISO ファイルを含むディレクトリを入力します。

「OK」を選択し、**[Enter]**を押します。

"1.5 CD-ROMからのOracle VM Serverのインストール"の手順7を参照して、インストールを続行します。

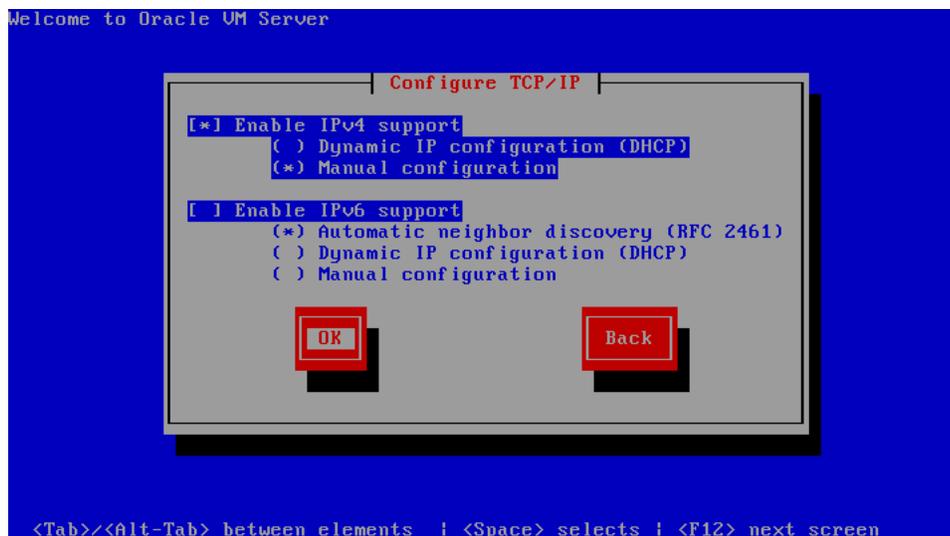
1.6.3 FTP サーバーからの Oracle VM Server のインストール

FTP サーバーから Oracle VM Server をインストールするには、以下の手順に従います。

1. インストール方法のリストから「**FTP**」を選択します。

「OK」を選択し、**[Enter]**を押します。

2. **Configure TCP/IP**画面が表示されます。

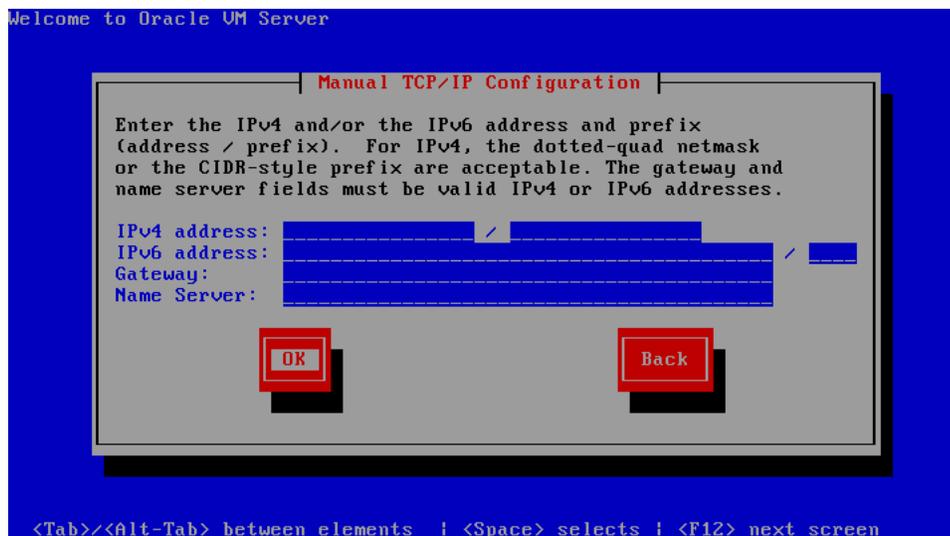


マシンで固有のIPアドレスを使用している場合、**Enable IPv4 support**の「**Manual configuration**」を選択します。また、オプションで**Enable IPv6 support**の「**Manual configuration**」を選択します。IPv4の詳細を入力する必要があります。

マシンでDHCPを使用してIPアドレスを割り当てる場合、**Enable IPv4 support**の「**Dynamic IP configuration (DHCP)**」を選択します。また、オプションで**Enable IPv6 support**の「**Dynamic IP configuration (DHCP)**」を選択します。Oracle VM ServerでのDHCPの使用について詳しくは、「[1.3 ネットワーク要件](#)」を参照してください。

「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。

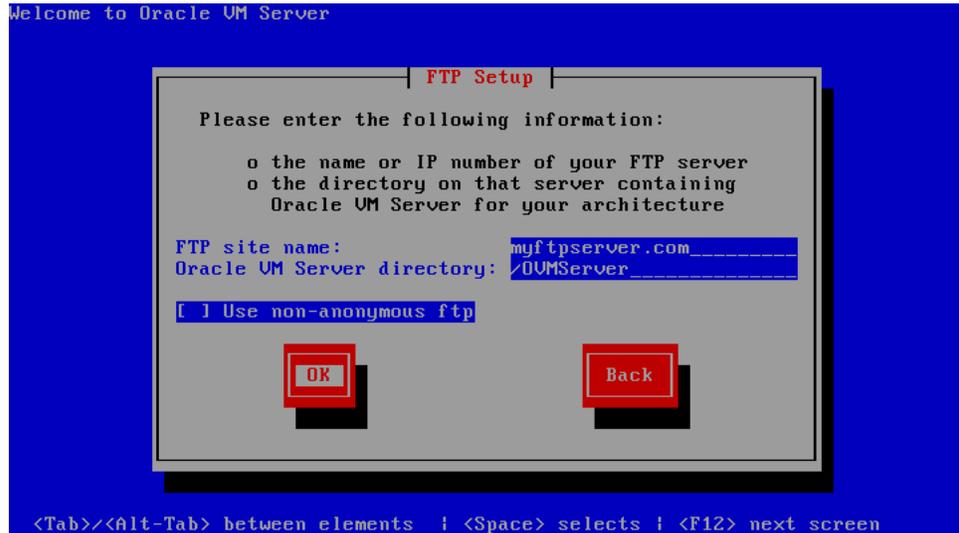
3. **Manual configuration**を選択した場合、**Manual TCP/IP Configuration**画面が表示されます。



IPv4 address、**IPv6 address**、**Gateway**、および**Name Server**を入力します。

「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。

4. FTP Setup画面が表示されます。



FTPサーバーのドメイン名またはIPアドレスを**FTP site name**フィールドに入力します。

アーキテクチャのバリエーション・ディレクトリを含むディレクトリの名前を**Oracle VM Server directory**フィールドに入力します。たとえば、FTPサーバーに次のディレクトリが含まれる場合

```
/mirrors/ovs/arch/variant/
```

以下を入力します。

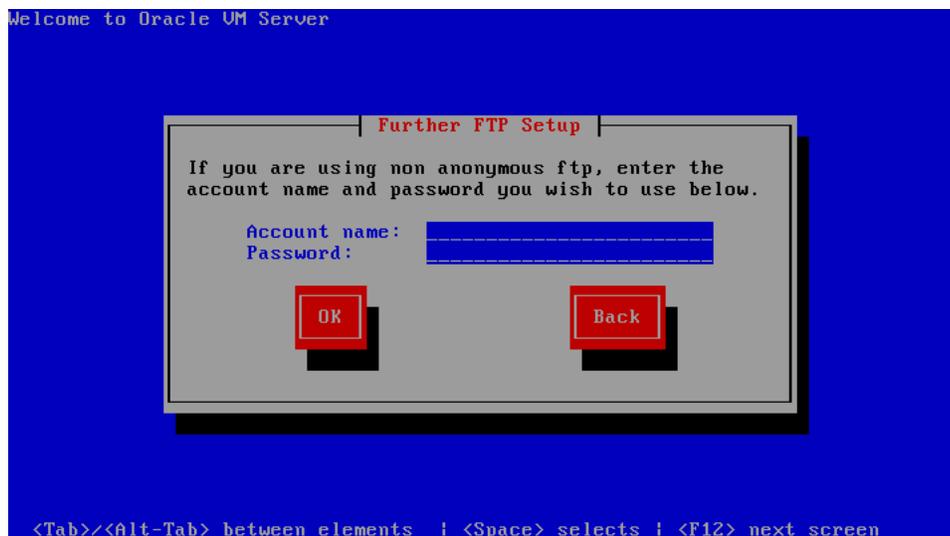
```
/mirrors/ovs/i386/Server
```

システムのアーキテクチャ・タイプ (i386、ia64、ppc、s390xなど) に`arch`を置き換えます。また、インストールしているバリエーション (Client、Server、Workstationなど) に`variant`を置き換えます。

FTPサーバーにアクセスするログイン資格証明を入力する必要がある場合、「**Use non-anonymous ftp**」を選択します。

「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。

5. 「Use non-anonymous ftp」を選択した場合、Further FTP Setup画面が表示されます。



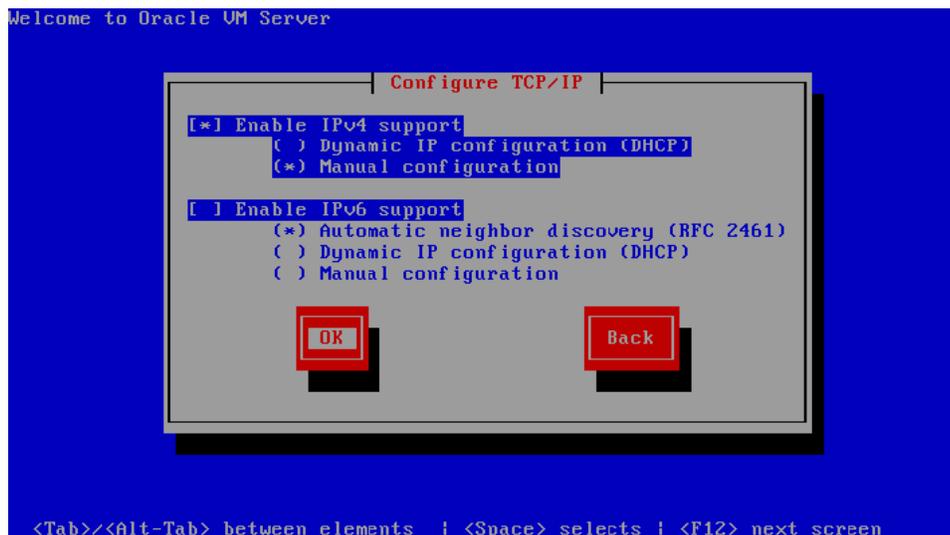
Account name フィールドにFTPサーバーのユーザー名、**Password** フィールドにFTPサーバーのパスワードを入力します。「OK」を選択し、[Enter]を押します。

"1.5 CD-ROMからのOracle VM Serverのインストール"の手順7を参照して、インストールを続行します。

1.6.4 HTTP サーバーからの Oracle VM Server のインストール

HTTP サーバーから Oracle VM Server をインストールするには、以下の手順に従います。

1. インストール方法のリストから「**HTTP**」を選択します。
「OK」を選択し、[Enter]を押します。
2. **Configure TCP/IP**画面が表示されます。

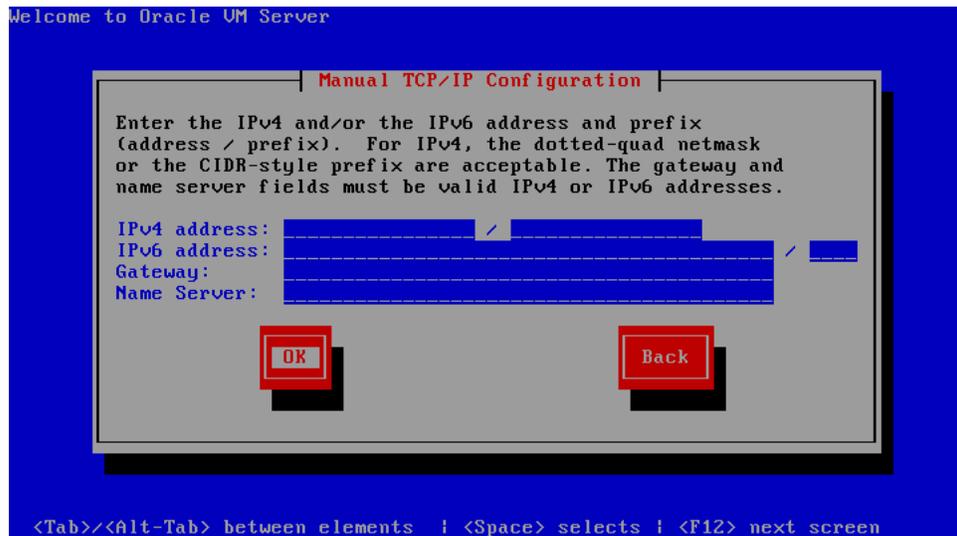


マシンで固有のIPアドレスを使用している場合、**Enable IPv4 support**の「**Manual configuration**」を選択します。また、オプションで**Enable IPv6 support**の「**Manual configuration**」を選択します。IPv4の詳細を入力する必要があります。

マシンでDHCPを使用してIPアドレスを割り当てる場合、**Enable IPv4 support**の「**Dynamic IP configuration (DHCP)**」を選択します。また、オプションで**Enable IPv6 support**の「**Dynamic IP configuration (DHCP)**」を選択します。Oracle VM ServerでのDHCPの使用について詳しくは、「[1.3 ネットワーク要件](#)」を参照してください。

「OK」を選択し、[Enter]を押します。

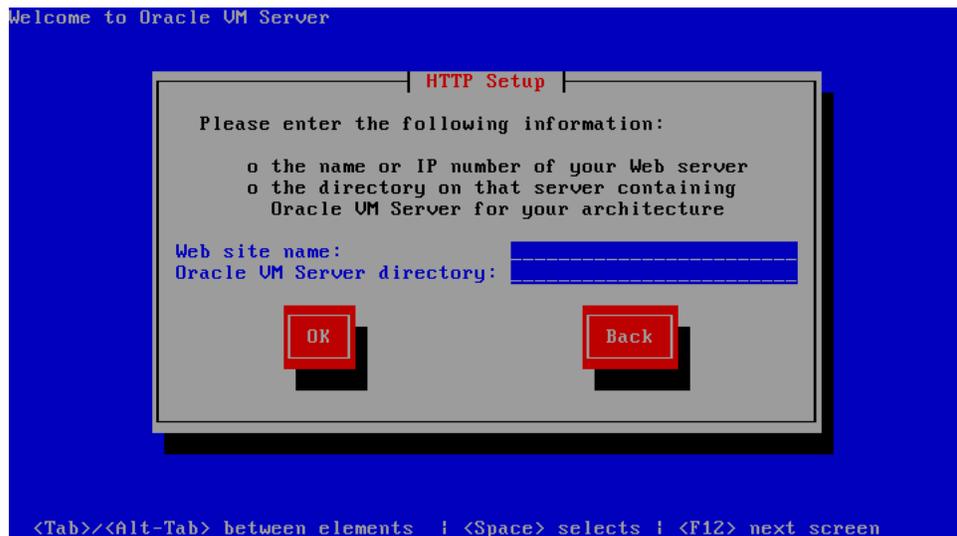
3. Manual configurationを選択した場合、**Manual TCP/IP Configuration**画面が表示されます。



IPv4 address、IPv6 address、Gateway、およびName Serverを入力します。

「OK」を選択し、[Enter]を押します。

4. HTTP Setup画面が表示されます。



HTTPサーバーのドメイン名またはIPアドレスを**Web site name**フィールドに入力します。

アーキテクチャのバリエーション・ディレクトリを含むディレクトリの名前を **Oracle VM Server directory** フィールドに入力します。たとえば、HTTPサーバーに次のディレクトリが含まれる場合

```
/mirrors/ovs/arch/variant/
```

以下を入力します。

```
/mirrors/ovs/i386/Server
```

システムのアーキテクチャ・タイプ (i386、ia64、ppc、s390xなど) に *arch* を置き換えます。また、インストールしているバリエーション (Client、Server、Workstationなど) に *variant* を置き換えます。

「**OK**」を選択し、**[Enter]**を押します。

"1.5 CD-ROMからのOracle VM Serverのインストール"の手順7を参照して、インストールを続行します。